

知多半島5市5町保健所作成

# 乳幼児の 口腔機能支援ハンドブック



乳幼児期は、食べる・飲み込むなどの口腔機能の基礎が作られる重要な時期です。乳幼児に関わる関係者が連携し、乳幼児の「歯と口の成長発達に応じた食べ方」をサポートしていきます。

半田市・阿久比町・東浦町・南知多町・美浜町・武豊町・半田保健所  
常滑市・東海市・大府市・知多市・知多保健所

視覚、味覚、触覚、聴覚、嗅覚の五感を使った食べ方で、美味しさに気づかせて、食事の楽しさを経験できるようにしてあげましょう。



このハンドブックの執筆に多大なる御指導、御協力をいただきました  
愛知学院大学歯学部小児歯科学講座の福田理教授、野村佳世助教、  
藤井美樹助教の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

# 哺乳期

0～4 か月頃

月齢 0

# 母乳やミルクをのむ

1

2

3

4

## 身体の機能 運動発達

- ・首がすわる
- ・体動・足をバタバタ
- ・話し声や突然の音に反応する
- ・口でなめる、手でいじる

## 哺乳反射

哺乳反射  
の消失

哺乳反射とは・・・

哺乳に関連した原始反射\*1で触覚刺激によって引き出される

## 食べる 飲み込む 機能の発達

(摂食・嚥下機能発達)

・生後2か月頃から手を口にもってくるようになる

↓  
口から食べ物を受け入れるために口の感覚の動きの準備をする

- ・指をしゃぶる
- ・オモチャをなめる

口の機能発達面からは、指しゃぶりやオモチャなどの乳首以外の物が入ること、哺乳に関連した原始反射の消失に役立っていくものと考えられる

## 歯と口の 状態

- ・上あごの中央部に乳首に合わせた凹みがある（吸綴窩）



## 哺乳

- ・母乳・ミルク

## 食べ方 飲み方支援

- ・赤ちゃんは、母乳・ミルクを飲む時、乳首を上あごの吸綴窩（凹み）に入れ飲んでいきます。乳首のくわえが足りないようでしたら、乳輪部までしっかりくわえさせ、下あごがしっかり動いているかみてあげましょう。
- ・哺乳反射は、生後4～5か月頃頃から徐々に減少していき、スプーンで食べる動きの準備が整ってきます。
- ・この時期は、**母子の愛情形成や心の発達**がなされる時期です。授乳の時は、児の顔を見て語りかけるように声かけしながら行いましょう。また、**テレビやスマートフォンを操作しながらの授乳は控え**ましょう。



【チェックリスト】は裏面にあります

## 【哺乳期】0～4か月頃チェックリスト

授乳するときは赤ちゃんの顔を見て、声かけしながら行っていますか。

➡ 0～4か月は、母をはじめとする主たる養育者との愛着形成において、とても重要な時期です。

ただ、母乳をのむ経験、乳首をくわえる経験、乳首以外のものを口に触れる経験など口腔機能面においても大切な時期でもあることから、児の口の中や口の動きに関心を向けはじめてみるとよいでしょう。



# ごっくん期

5～6か月頃

## 唇を閉じてゴックンと飲み込む・ 食べ物をこすり取る

月齢 5

6

### 身体の機能 運動発達

- ・見たものに手を出す
- ・口の中に物を入れる
- ・オモチャに手を伸ばす

- ・寝返りをうつ
- ・うつぶせ姿勢を保つ



### 食べる 飲み込む 機能の発達 (摂食・嚥下機能発達)

#### えんげ 嚥下機能獲得期・ほしよく 捕食機能獲得期

嚥下機能獲得期とは・・・

- ・口を閉じてゴックンと飲み込む（嚥下）動きを獲得する時期のこと

捕食機能獲得期とは・・・

- ・スプーンなどから食べ物を口唇を閉じながらこすり取る（捕食）動きを獲得する時期のこと
- ・哺乳とは異なり、スプーンから取り込む、口を閉じて飲み込むという一連の動きは、乳児自身が繰り返し食べながら、少しずつ学び機能として獲得していく

- ・口唇の閉鎖をみとめるようになる
- ・上唇での取り込みをみとめるようになる

- ・指をしゃぶる
- ・オモチャをなめる
- ・オモチャをかむ

### 歯と口の 状態

- ・あごの幅が広がる
- ・舌の動きは前後運動である

<舌の前後の動き>



口の前の方 ← → のどの方

### 離乳の形態

#### 離乳食開始

- ・なめらかにすりつぶした状態
- 〔目安として:ポタージュやヨーグルト状くらい〕



#### 《離乳食開始の目安》

- ・哺乳反射による動きが少なくなってきた\*2
- ・ミルク以外の食べ物に興味をもってきた

### 食べ方 飲み方支援

- ・自分の意思によって唇を閉じて食べ物を取り込む動きを引き出すため、スプーンを水平に下唇にのせ、上唇が閉じるのを待ちましょう。
- ・上あごにスプーンをこすりつけないようにしましょう。
- ・スプーンは大きすぎずお口に合ったものを選びましょう。
- ・「お口あ～ん」など声かけしながら、焦らず児の表情を見ながらすすめていきましょう。無理やり口の中に入れ込まないようにしましょう。
- ・離乳食を与える時の赤ちゃんの姿勢にも気をつけ、体全体を少し後ろに傾けるようにするとよいでしょう。



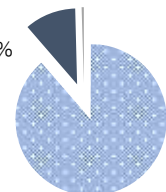
- ・食べ物に慣れていく時期です。はじめは上手に食べられず、こぼしてしまいがちですが、焦らず、声かけしながら進めていきましょう。
- ・できるだけ、保護者も一緒に食事をとり、大人が食べている“食事姿”を見せ食事を楽しみコミュニケーションをとりましょう。
- ・食べるための基本的な機能の発達は、離乳期から始まり乳歯が生えそろう3歳頃まで続きます。

#### ◆この地域の実態◆

設問の対象:1歳6か月児  
「離乳食を始める前に、スプーンやおもちゃなどをなめるようなことをしていましたか？」

「いいえ」 10.9%

「はい」88.6%



H28 年度実態調査結果 \* 5

## 【ごっくん期】5～6か月頃チェックリスト

離乳食を食べる時、舌で押し出してしまうことはありませんか。

- ▶ 哺乳反射が残存している場合は、オモチャなめや指しゃぶりをしっかりしながら、スプーンになれてくるのを待ちましょう。
- ▶ 一口量が多すぎたり、食形態が難しい場合（例えば、粒があるなど）にも口から出してしまうこともあるため、スプーンに入れる量をほんの少しにしたり、なめらかなペーストにしてみましょう。

離乳食を食べるのを嫌がりませんか。

- ▶ 離乳食を開始して間もない頃は、これまでの哺乳の動きにより乳汁摂取しているため、口に入ってきたペースト状の離乳食をどのような動きで処理すればよいかわかりません。  
無理に押し込むことはせず、慌てずに少しずつ慣れていくとよいでしょう。



③歯・口の発達を育む「食べ方」支援に向けて

# もぐもぐ期

7～8か月頃

月齢 7

8

## 舌を押しつぶして食べる

### 身体の機能 運動発達

・おすわりができる

・座ったままオモチャをもってあそぶ



### 押しつぶし機能獲得期

押しつぶし機能とは・・・

・食べ物を舌と口唇で押しつけてつぶし、味わって食べる動きのこと

- ・舌が上下運動がみられる
- ・口角の水平引きがみられる

＜舌の上下の動き＞

上の方  
下の方



＜口角の水平引き＞



### 食べる 飲み込む 機能の発達 (摂食・嚥下機能発達)

・オモチャをかむ

・スプーンから一口飲みをする

### 歯と口の 状態

下の前歯が生えてくる\*4 (5～10か月頃)



### 離乳の形態

・舌でつぶせる固さ



〔目安として:絹ごし豆腐の固さくらい〕

＜かぼちゃやじゃがいもなどつぶしやすいものは

3mm角程度に切り、柔らかく煮たものを1品増やす＞

### 食べ方 飲み方支援

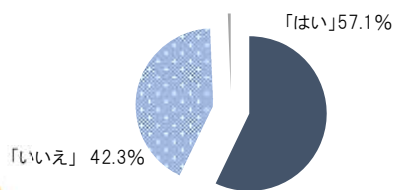
- ・唇とあごを閉じる動きで食べ物を口の中に取りこみ、舌の前方部と上あごの前方部で離乳食を押しつぶして食べます。与える側は焦らず、唇で食べ物をしっかり取りこむまで待ちましょう。
- ・つぶした食べ物をひとまとめにする動きが少しずつできるようになります。それまでは、まとまりやすくして飲み込みやすいように、とろみをつける等の工夫をしましょう。
- ・舌の前方部と上あごの前方部は、食べ物の食感や形、大きさを認識したり、**食べる機能をうながす**うえで重要な発達のところです。

#### ◆この地域の実態◆

設問の対象:1歳6か月児  
「離乳食を与えている時、「モグモグ」「カミカミ」が少ない(丸飲み)ようでしたか？」

#### 《水分の飲み方》

- ・始めは、閉じた上下唇の間にスプーンを横にして入れ込み、上唇が水分に触れたら少し傾けて、徐々に口の中へ取りこめるようにします。そして、少し経ったらスプーンを横にして下唇の上におき、閉口して上唇が水分に触れるのを待つことで**すする動きを引き出します。**



H28年度実態調査結果\*5



【チェックリスト】は裏面にあります

## 【もぐもぐ期】 7～8か月頃チェックリスト

離乳食を食べる時、チュートチュートと吸いながら食べることがありますか。

➡ 離乳期であるため、無理しすぎず、その進行に合わせた食形態にしましょう。  
食形態が硬すぎたり、ペースト状に偏ったりしていないか、軟固形態の摂取経験はどうかなどを確認しましょう。

食べている時、食べ物が口から出ることはありませんか。

➡ 軟固形食べ物の硬さの程度で、食べ物をつぶす動きが行われているか否かの確認をして硬さの調整をします。

硬すぎると、食べなかったり、口から出したり、あるいは丸飲みしてちっ息を起こすこともあるため、このようなことがないように、食べる機能の発達に合った調理形態にしましょう。

食べさせ方の介助では、口の中で食品の物性が感知しやすく、つぶす動きを引き出せるように、閉口時に口の前方部に食物が取り込めるような介助をします。





一④歯・口の発達を育む「食べ方」支援に向けて

# かみかみ期

# 歯ぐきですりつぶす

9～11 か月頃

月齢 9

10

11

## 身体の機能 運動発達

・ハイハイがはじまる

・つかまり立ちができる



・音楽に合わせて手をたたく

・自我意識が芽生える

## 食べる 飲み込む 機能の発 達

### すりつぶし機能獲得期

すりつぶし機能とは・・・

- ・上下の奥の歯ぐきですりつぶす動きのこと
- ・舌の側方運動をみとめるようになる
- ・下あごの側方運動をみとめるようになる
- ・口角の片側引きをみとめるようになる

<舌の左右の動き>



<口角の片側引き>



・目と手と口の協調運動\*3ができあがってくる

- ・手づかみ食べ
- ・介助でコップから飲める

## 歯と口の 状態

4本生えてくる\*4 (9～10 か月頃～)



## 離乳の形態

- ・歯ぐきでつぶせる固さのものを与える  
〔目安として:指でつぶせるバナナぐらい〕



## 食べ方 飲み方支援

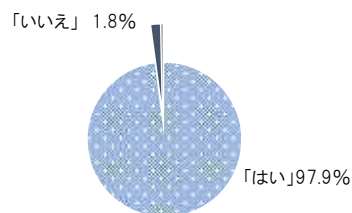
- ・やわらかめのものを前歯で**少しずつかじり取らせる**ようにしましょう。
- ・自分で食べたがるようになるので、見守りながらやらせてあげましょう。
- ・徐々に生活のリズムを作っていきます。
- ・奥歯はまだ生えていませんが、口に入ってきた食べ物を将来、歯の生えてくる歯ぐきですりつぶす機能が発達してきます。この時期は、すりつぶした食べ物を口の中でまとめることができるようになってきます。

### 《水分の飲み方》

- ・始めは、ティースプーンなどを横にしてすする動きがみられるように促し、一口飲みができるようになったら、少しずつカレースプーンなどのスプーンを使って水の量を増やし、2～3回ゴクゴクと飲めるようにします。
- そして、**コップからの連続飲みの練習**をしていきましょう。コップに入れる水の量は少なくした方がこぼれにくいですが、まだまだ手のコントロールは難しいため、コップは**大人が介助**してあげましょう。
- ・シリコンストローの常用は避けましょう。

### ◆この地域の実態◆

設問の対象:1歳6か月児  
「バナナなどを前歯でかじり取ることができますか?」



H28 年度実態調査結果 \*5

## 【かみかみ期】 9～11 か月頃チェックリスト

食べ物の丸飲みがありますか。

- ➡ 食形態によって、押しつぶしやすいつぶしに変化しているかをみます。  
前歯が生えてきたら、お口の中ですぐ溶けるような赤ちゃん用のスナック菓子（赤ちゃんせんべい）などや、食べる機能発達に応じて蒸しパンやおにぎりなどをかじり取る経験をしていきましょう。

水分を口角からこぼすことはありませんか。

- ➡ コップの縁を上下の唇ではさむようにしてみましょう。  
また、コップにあまりたくさんの水分を入れるのではなく、少量から練習してみましょう。  
まだまだ、手指の機能はともなっていないので、自分でコップを持つとこぼれてしまいます。



一⑥歯・口の発達を育む「食べ方」支援に向けて

# 手づかみ期


# 手づかみで食べる

12か月～18か月頃（1歳6か月頃）

月齢 12 13 14 15 16 17 18

**身体の機能・運動発達**

- ・つたい歩きができる
- ・小さい物（ボタンなど）を指先でもてるようになる
- ・スイッチ、ドアノブをいじる
- ・自己主張が強くなる
- ・発語・一語文を話す



**食べる飲み込む機能の発達**  
(摂食・嚥下機能発達)

**自食期**

- ・自分でコップを持ち、飲み始めるようになる
- ・手づかみ食べ
- ・介助でコップから飲む

**歯と口の状態**

8本生えてくる\*4（1歳頃～）



**離乳の形態**

**離乳完了**

- ・歯ぐきでかみつぶせる固さ  
〔目安として:肉だんごくらい〕

**食べ方飲み方支援**



- ・食物を自分の手で持ち、一口量をかじる取る練習をさせましょう。  
(例:加熱調理した野菜の薄切りやスティック状にしたものやおにぎりなど)
- ・一口量を覚える時期なので、見守りながら積極的に手づかみ食べをさせましょう。
- ・上下奥歯がまだ生えてなく、かみ合っていない場合は、丸飲みしてしまうので固いものはさけましょう。

**《水分の飲み方》**

- ・自分でコップで飲む練習を始めましょう。  
始めは、おちょこなどの飲み口が広く小さい器に慣れてきたら、軽くて両手に取手のついたものなどを選んでみるとよいでしょう。  
また、こぼれてもよい環境で子どもの自由にさせてあげることもコップの色々な用途に使う学習のためには重要なこともあります。

◆この地域の実態◆  
設問の対象:1歳6か月児  
「1歳頃、手づかみ食べをさせていましたか？」

「いいえ」7.3%  
「はい」92.5%

H28年度実態調査結果\*5

◆この地域の実態◆  
設問の対象:1歳6か月児  
「1歳頃、手づかみ食べをさせていましたか？」

「いいえ」7.3%  
「はい」92.5%

H28年度実態調査結果\*5

**《ちっ息予防》**  
急いで食べたり飲み込んだりして、食物をのどに詰まらせないように気をつけましょう。  
また、食事のときは、一人にせず、大人がそばで見守ってあげましょう。

## 【手づかみ期】12か月～18か月頃チェックリスト



### よだれが多いですか。

- ➡ まずは耳鼻科にて鼻炎などの治療の必要性がないか診てもらいましょう。
- 離乳完了まで様子を見て、それでもスタイの枚数が全く減らない場合には、水分のコップ飲みをしっかりと行うようにしてみてください。
- 口唇を閉じる力も関係する場合がありますため、ヨーグルトなどを介助下で捕食する際の<sup>こうしんへいさ</sup>口唇閉鎖を見直してみるのもよいでしょう。

### 上手くかめないですか。

- ➡ いわゆるそしゃくの完成は乳歯列完成後にある程度経験を経てからのため、現在歯でのそしゃくが可能な食形態を確認してみましょう。

### 飲み込めないことがありますか。

- ➡ 口の中の状況、口腔機能発達と食形態の不一致もあるため確認してみましょう。  
また、バサバサしていて飲み込みにくいなど、食形態に無理がある場合もあります。

### 吸い食べがありますか。

- ➡ 離乳期であれば、その進行に合わせた食形態にしましょう。  
(離乳期完了であれば、哺乳ビンを長期に使用したり、夜間授乳の可能性もあります。)

### 食べ物の丸飲みがありますか。

- ➡ 食形態によるものではないか確認し、特にごはんや麺類など成人でもかまない人は多いため、月齢と歯の萌出状態を見て、つまらせないようであれば問題ないです。  
また、介助の時や本人が食べる時に食べ物が口の奥に入ることがある場合には、食べ物が口の前方形に入るようにしてみましょう。  
一口量が多すぎる場合にも丸飲みがみられることがあるため、注意してみましょう。

⑥歯・口の発達を育む「食べ方」支援に向けて

# 幼児期前半

1歳6か月～3歳頃

年齢 1.6

2.0

3.0

# 歯を使って食べる

## 身体の機能 運動発達

- ・転ばないで上手に歩く
- ・階段を登り降りする
- ・二語文を話す
- ・歌を真似る

## 食べる 飲み込む 機能の発達 (摂食・嚥下機能発達)

### 食具食べ獲得期

- ・自分の口で一口量を調節することや口のどのあたりまでもっていくとかみ取りやすいかなどを覚え、機能定着がされていく
- ・自分でコップを持ち飲めるようになる
- ・スプーンを使う (手のひらで握る)
- ・フォークを使う (3指で握る)
- ・フォークを使う (手のひらで握る)

## 歯と口の 状態

乳歯が生えそろう\*4(2歳半頃～)  
(乳歯 20本)

## 食事の形態

### 軟食から幼児食

- ・食べにくい形態の食物には工夫が必要  
(水分を足す、とろみをつける、食べやすい食品に混ぜる)

## 食べ方 飲み方支援

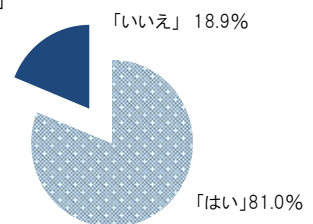
- ・2歳6か月児頃から乳歯列が完成しますが、かむ力がまだ弱く、十分にかめないため食べ物を細かく切るなどします。  
(分厚い肉や生レタスなど)



- ・1歳6か月児では、自分でしっかりコップを持って飲むことは難しい年齢ですが、今後、乳歯列が完成することで下あごが安定し、また、手指の機能が伴ってくると飲みやすくなります。
- ・シリコンストロー（マグマグストロー）は、こぼれず大人にとってはとても便利ですが、口腔機能発達面からすると、**コップ飲み**が重要です。余裕があるときはコップ飲みをうながしましょう。
- ・ストローは、唇だけでとらえて飲むことが少しずつできるようになります。**ストローは深く長くくわえ過ぎず、短くくわえるように**少しずつながすとよいでしょう。

### ◆この地域の実態◆

設問の対象:1歳6か月児  
「子ども自身がコップを使ってのむことができますか？」



H28 年度実態調査結果 \* 5

【チェックリスト】は裏面にあります

## 【幼児期前半】1歳6か月～3歳頃チェックリスト



上手にかめないことがありますか。

➡ いわゆるそしゃくの完成は乳歯列完成後にある程度経験を経てからのため、現在歯でのそしゃくが可能な食形態を確認してみましょう。

飲み込めないことがありますか。

➡ 口の中の状況、口腔機能発達と食形態の不一致もあるため確認してみましょう。  
また、バサバサしていて飲み込みにくいなど、食形態に無理がある場合もあります。

食べ物の丸飲みがありますか。

➡ 食形態によるものではないか確認し、特にごはんや麺類など成人でもかまない人は多いため、月齢と歯の萌出状態をみて、つまらせないようであれば問題ないです。  
また、介助の時や本人が食べる時に食べ物が口の奥に入ることがある場合には、食べ物が口の前方部に入るようにしてみましょう。  
一口量が多すぎる場合にも丸飲みがみられることがあるため、注意してみましょう。  
前歯でのかじり取りもしっかりと行っていきましょう。

遊び食べがありますか。

➡ ・必要量に比べ、食事量が多い場合は、身長、体重、運動量の確認をしましょう。  
食事時間を30分位で区切りをつけてみることも行い、あまり食べれなかった時は、次の食事でがんばってみるのもよいでしょう。  
他に、意識が向かないよう、環境づくりをしてみましょう。  
・食形態に無理があり、負荷がかかり過ぎている場合は、食べやすいように食内容を検討してみましょう。

一⑦歯・口の発達を育む「食べ方」支援に向けてー

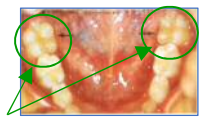

# 幼児期後半

# 集団の場で他の人と一緒に食べる

3歳～6歳頃  
年齢

3.0

6.0

<p><b>身体の機能 運動発達</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段を登り降りする</li> <li>・生活に必要な言葉を覚えて言える</li> <li>・あいさつに応える</li> <li>・保護者や友達と会話する</li> </ul>
<p><b>食べる 飲み込む 機能の発達</b> (乳食・嚥下機能発達)</p>	<p><b>社会食べ(集団の場で他の人と協調して食べる)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳歯列が完成すると、食物の大きさや固さに応じて、よくかんで味わって飲み込むことができる食べ方ができるようになる</li> </ul>
<p><b>歯と口の 状態</b></p>	<p>永久歯の萌出はじまる*4 (6歳臼歯(第一大臼歯)(6歳前後～) 乳歯前歯の交換がはじまる(6歳前後～)</p>  <p>6歳臼歯 愛知県「はら玉の歯まひノート」より</p>
<p><b>食事の形態</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人とほぼ同じ物が食べられるようになる</li> </ul> 

**食べ方  
飲み方支援**

- ・乳歯列完成の3歳頃からは、ある程度大人と同じものを食べることができるようになります。3歳頃から6歳までの間にそしゃくすることを習熟していきますので、この時期は色々な食体験を経験させることが重要です。
- ・多くの人と一緒に食べる際の食べ方のマナーも少しずつ身につけていきましょう。
- ・箸などの練習の時には、体幹の安定のためにまだ机面にひじをつけることも必要な時期が含まれます。

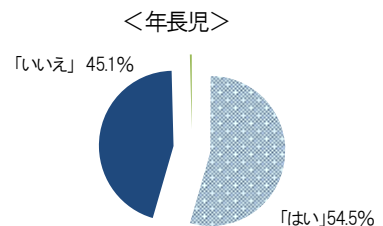
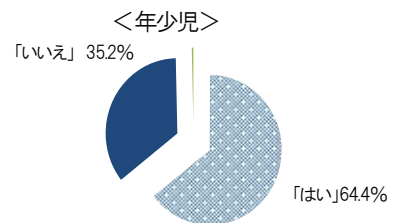
**《足底を接地して食べる》**

食事の際に、安定して口を機能させるには足底を床(足台)について、**体幹を安定**させて食べるようにしましょう。



◆この地域の実態◆

「いすに座って食べる時、足が床(足台)についていますか？」



H28年度実態調査結果\*5

**《生活習慣を整える》**

しっかり遊び、早寝早起きの生活リズムをつくることも大事です。また、むし歯ができやすい年齢ですので、間食のダラダラ食べや寝る前の甘い物の飲食はしないようにしましょう。歯みがきの習慣も身につけていきましょう。



**《お口を閉じる力をつける練習》(お口を使った遊びの一例)**

- ・歌う
- ・シャボン玉作り
- ・にらめっこなど
- ・ブクブクうがい



## 【幼児後半期】3歳～6歳頃チェックリスト

口を閉じて食べていますか。

- ➡ 鼻呼吸の確認をしましょう。
- 唇を閉じてかむことで、そしゃくによってうまれた食材の風味がより感じられやすくなります。

また、色々な食経験をかさねていくなかで、そしゃくは習得されていきます。一口量が大き過ぎる場合や硬すぎる場合には、特に唇を閉じてかんでいないことがあるため、見直してみましょう。

- 一口量をかじり取ることを覚えていきましょう。





## 《用語解説》

〔哺乳期〕 \*1 原始反射・・・新生児から乳児期の初期にかけて特有の反射が存在します。これらを原始反射といいます。

哺乳に関係する原始反射には、探索反射や咬反射などがあります。

例えば、探索反射とは乳探し反射とも呼ばれており、唇などに刺激を加えると刺激された方に顔を向け、口の中に取り込もうとします。

〔ごっくん期〕 \*2 「哺乳反射による動きが少なくなってきた」とは・・・

指の腹で口角や口唇に刺激を加えたときに、刺激した指を追いかけて頬を回すような動きや小指を口の中に入れたときに、舌を指に包むようにしてから吸う動きがみられなくなってきたことを目安にするとよいと思われます。

〔手づかみ期〕 \*3 手と目と口の協調運動とは・・・目で食べる物を確かめて、手指でつかんで、口まで運んで口に入れるという目と手と口の協調運動の発達が1歳を過ぎる頃になされはしめ、3歳頃までには食具を用いた摂食が上手になってきます。

〔もくもく期〕  
〔かみかみ期〕  
〔手づかみ期〕  
〔幼児期前半〕

\*4 歯の生える時期は個人差があります。

\*5 実態調査結果・・・平成28年度半田保健所管内の半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町及び知多保健所管内の常滑市、東海市、大府市、知多市における1歳6か月児・年少児・年長児「お子さまのお口の健康と食べ方調べ」調査実施数2,963名

## 《参考文献》

- 1) お母さんの疑問にこたえる乳幼児の食べる機能の気づきと支援: 向井美恵著
- 2) 口腔機能への気づきと支援: 向井美恵著
- 3) 小児の口腔科学: 朝田芳信他
- 4) 上手に食べるために: 金子芳洋・菊谷武監修
- 5) 乳児の発達と保育: エイデル研究所発行
- 6) 愛知県母子健康診査マニュアル
- 7) 歯科衛生士雑誌とじ込み付録 2016
- 8) ワーキング会議資料(愛知学院大学小児歯科学講座作成 2017.8.28)

## 乳幼児の口腔機能支援ハンドブック(地域歯科保健課題対応事業)

発行月日: 平成30年3月

発行元: 愛知県半田保健所

〒475-0903 半田市出口町1丁目45番地4

電話 0569-21-3354